

令和8年度第1回鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会 議事録（概要）

日時 令和8年（2026年）7月13日（火）午後1時から3時半まで

場所 鎌倉商工会議所 102 会議室

出席 小野会長、浅川委員、芝田委員、大道委員、田崎委員、波多辺委員、保坂委員、
牧田委員

<事務局>

環 境 部 山本次長

ごみ対策課 大窪担当課長、実方担当課長、池田課長補佐、中橋担当係長、
進藤担当係長、皆葉担当係長、山田職員、園山職員、長尾職員

傍 聴 者 なし

冒頭、委員の互選により小野委員が会長に、亀山委員が副会長に選任されました。

報 告 （1） 戸別収集の実施状況について

事務局から資料1について報告した後、戸別収集の実施状況について質疑応答を行いました。

浅川委員：収集方法の変更であり、収集員、市民ともに慣れるまで大変かと思う。徐々に収集漏れが減ってきているとのことだが、減ってきていともなお残る収集漏れの原因は何か。

皆葉係長：資料の記載内容に加え、収集員による単純な見落としも生じている。収集件数が多く収集時間に制限がある中で、見落としが生じるものと認識している。

秦 委 員：収集漏れはどのように発覚するのか。

皆葉係長：市の職員が、過去に収集漏れがあったお宅を巡回する中で発見する事例もあるが、最も多いのは市民から電話やメールで問合せをいただくケースである。

田崎委員：戸別収集は収集ルートを学習して、より効率的に収集することが大切なポイントかと思うが、収集効率の改善状況を教えていただきたい。また、収集員の業務時間の負担について、過渡期は仕方ない部分もあるが、3カ月が経過した中で状況はどうか。

皆葉係長：収集効率向上のため、収集支援システムを導入し、最適なルートに沿って収集している。なお、現場の判断で別ルートの提案を受け、変更する場合もある。

収集時間については、当初は 40 ルートのうち 3 分の 1 のルートで指定の収集時間を超過していたが、現在は道路交通状況等により遅れてしまう可能性を除き、基本的に時間内に収集を終了している。

芝田委員：クリーンステーション収集時には収集漏れが発生していたのか。

皆葉係長：クリーンステーション収集時にも発生していた。現在、資源物は引き続きクリーンステーション収集を行っているが、そちらでも収集漏れは生じている状況。

芝田委員：戸別収集に移行したことで収集漏れは減少しているのか。

皆葉係長：収集箇所が大幅に増加していることから、全体数は増加している。クリーンステーションは市内に約 5,000 ヶ所あるが、戸別収集になると収集世帯数が約 5 万世帯以上あるため、自ずと収集漏れ件数は増加する。現在の収集漏れの件数は令和 7 年度に行った先行実施地区での件数と同じ水準に近づいてきているが、まだ上回っている状況のため、改善に努める。

小野会長：収集漏れは同じ場所で生じることが多いのか。

皆葉係長：排出場所が分かりにくい、排出頻度が少ないといった世帯があり、連続で収集漏れが生じているケースもある。その場合は、収集業者と情報連携して再発防止に努めている。

小野会長：今後改善される予定か。

皆葉係長：収集業者に情報を提供した上で、市職員が巡回することでフォローアップしている。また、収集漏れが発生しやすい世帯の情報については、収集作業中にナビ上でわかるように、収集支援システムにアラートが鳴る仕組みを導入したことで、今後はより改善が進んでいくと考えている。

報 告 (2) 第 3 次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画に基づく令和 7 年度ごみ処理基本計画アクションプログラムの実績について

事務局から資料 2 及び資料 3 に基づいて報告及び説明をした後、第 3 次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画に基づく令和 7 年度ごみ処理基本計画アクションプログラムの実績について質疑応答を行いました。

牧田委員：アクションプログラムの実績について、市民には広報で周知されているのか。

進藤係長：6 月議会において報告している。広報等での周知は行っていない。

牧田委員：鎌倉市内に居住し事業を行っている立場からすると、目標なく減量を目指している気がする。実践していく生活者である市民が、ある程度目標値に照らしてどこまで達成しているのか分かるように、概要で良いので分かりやすい形で提示してもらおうと、メリハリがついて減量に取り組む意欲が改めて出てくるのではないかなと思う。

進藤係長：今後、自治・町内会における 3 R 推進説明会や啓発広報等において、分かりやす

い周知を図っていきたい。

小野会長：実施した際には報告をお願いしたい。

大道委員：重点項目３新たな資源化について、紙おむつ資源化の進捗状況が見えづらく、さらにも市民に知らせるとともに、急ぎの課題として取り組んでもらいたい。また、事業系混合ごみ処理の報告があるが、どのような資源化内容なのかまで示すと伝わりやすい。

進藤係長：全国的にも取り組んでいる自治体、事業者が少ない中で、積極的に情報交換を行っている。処理コスト、設備投資が大きいこと等の課題がある。高齢化が進む中、紙おむつがごみ減量のキーポイントとなる施策と認識しているため、なるべく早く紙おむつの資源化を実施できるよう努めたい。

また、事業系ごみの資源化について、オリックス資源循環株式会社で資源化した総量の表記はしていたが、具体的なところまでの表記はしていない。こちらも分かりやすい形で示せるよう検討したい。

田崎委員：紙おむつの動向についてだが、本年４月に環境省がガイドラインを改訂し、再資源化を進めることをとりまとめているが、全国的にも検討している自治体は数十程度で、経済面の課題がある。コストが高いことで、メーカーも試験段階としており、まだ拡大できない状況がある。その中で鎌倉市は全国の中でもリサイクルやリユース、紙おむつ等先行的に取り組んでいるという認識を持っている。質問として、生ごみの減量が重点目標の１つであると思うが、施策の結果、どれくらい改善されたのかが分かりづらい。減量の進捗状況を教えていただきたい。

また、リチウムイオン電池について、火災等が非常に大きな問題となっているが、保険の適用状況や、施設が被害を受けた際の緊急時の対応は想定されているか教えていただきたい。

事業系の廃棄物については、インバウンドの観光客が排出するごみの処理費用を観光税等で徴収するような検討をされているか教えていただきたい。

進藤係長：生ごみに関して、減量効果が見えづらい部分があるので、調査の仕方も含めて対応を検討したい。リチウムに関して、現状保険には加入していない。収集・処理の際に発火しないよう、缶に入れて酸素を遮断するなど適宜対応している。今後、施設等で火災が起きた際の対策も検討を行う。インバウンドに関して、本市ではごみの持ち帰りをお願いしている。同じような観光客の多い自治体と連携し、情報共有して方向性を出していけたらと考えている。

保坂委員：今泉クリーンセンター跡地での生ごみ資源化の検討が以前からあったが、臭気対策等課題があり、停滞していると思う。先行事例の研究により現状の課題を解決して実現できるのか、事業系で実現しているメタン発酵の手法等、別の方法で取り組むのか教えていただきたい。

進藤係長：現状では生ごみ資源化の方向性は見出せていない状況。施設用地の課題が大きく、処理方法から今一度検討をしている。先行自治体から積極的な情報収集を行って

いきたい。

波多辺委員：インバウンドに関する補足をさせていただく。小町通りは観光客が多く、商店街で配布用ごみ袋を作成したり、他店のごみであっても回収して事業系ごみとして事業者負担で処理している場合がある。持ち帰りが原則であると思うが、現実的には持ち帰ってもらうことが難しい。市が対応するのも難しいのが実情だと思う。小規模事業所では家庭ごみと同様の排出を認める制度を作っていただいているが、事業者が協力をしている実態もある。

大道委員：観光客から渡されれば事業系ごみとして自己負担で排出している。持ち帰りの広報はされているが、特に海外の方で言語が通じないと協力を得られない場合が多い。宿泊税を検討されている自治体もあるようだが、縦割りではなく庁内で連携して、観光ごみ対策に取り組んでいただきたい。また、事業系ごみの処理を行うオリックス資源循環株式会社の契約期間が来年5月までとなっているが、終了後の選定の予定はどう考えているか。

池田補佐：今期は5年間の契約であったが、次期は期間を含めて選定方法を検討している状況である。

議 題 (1) 第4次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画の進行管理について

報告(2)に続き、第4次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画の進行管理について審議を行いました。

浅川委員：ごみ組成については検討中とのことだが、鎌倉市から排出されたごみでのごみ質調査を用いるべきかと思う。経年評価のため、途中での調査方法の変更はするべきではない。焼却場では通常、攪拌したごみから抽出して調査するが、鎌倉市は焼却炉がなくなったため、どのように調査をするのか。

大窪課長：搬入先施設の調査値を用いる想定があったが、現在は、横須賀市からの受入条件として、ごみ質調査を特例で実施しているため、調査方法を検討する旨の記載をしている。ご指摘のとおり、途中変更はしない形で整理し、お示しする。

芝田委員：水切りの啓発実績はどのような記載を想定されているか。

進藤係長：広報誌への掲載、町内会での説明会数や、地下道ギャラリー、本庁舎ロビーでの展示等、啓発回数を踏まえた記載を考えている。

田崎委員：3R指標について、ごみ排出量は人口による変動もあるため、1人当たりの値も見の方が良い。リユース事業に関する実績について、事業者と連携がある自治体数を600とするという目標が国で設定されている。実績記載の際に分かるようにしていただけると良い。また、衣類についても、家庭から排出される処分しなければならぬ衣類を25%削減する目標が国で定められており、フォローアップができるよう、検討いただきたい。

進藤係長：1人あたりのごみの排出量を入れるよう検討する。リユース事業に関してはリユ

ース食器の協働事業等を行っているので内容の記載を行う。衣類の関係も指標として項目にないため、適切なところに盛り込むよう検討する。

小野会長：1人当たりごみ処理経費が神奈川県統計との記載があるが、神奈川県統計の中に、鎌倉市が入っているのか。

進藤係長：神奈川県が取りまとめて公表される統計であり、神奈川県発表の数値の中に鎌倉市が入っている。

芝田委員：施策3-1食品ロス削減協力店の登録数についての指標があるが、どのような事業者が対象となるのか。登録したお店が全事業所数中の何割か示されると分かりやすいと思う。

進藤係長：対象となる店舗は、食べ残しを減らせるように少量で提供したり、持ち帰りが出来るようなパック等を提供したりする協力店であり、事業者から申し出があれば積極的に登録をしている。登録店舗が母数に対して何割かは把握できていないので、記載方法等検討する。

波多辺委員：飲食店での食品ロス削減について、食品ロス削減に繋がる調理機器の導入等が進んでいる。協力店の基準を広げることで、登録店を増やせると思う。各事業者、工夫して削減に取り組んでいるところなので、お互いにメリットがあると思う。

牧田委員：3010運動も項目に入れることを検討してほしい。

進藤係長：削減協力店及び3010運動について、いただいた意見を参考に検討する。

保坂委員：環境教育実施件数の指標について、市としての実施件数も重要だが、教育機関の先生等に学んでもらうことも重要である。教材を提供するなども検討していただきたい。

進藤係長：担当教諭から相談を受ける機会も年数件ある。また、大学への出張講義もしている。環境教育の指標において実施内容が分かるような記載をしていきたい。

小野会長：滞在者への協力要請については他自治体の事例を踏まえながら、対応を工夫する必要があると思うので、ぜひ検討をお願いします。評価書としては、ごみ質調査の調査方法、一人当たりのごみ量の評価、衣類の記載の検討をお願いしたい。また、評価を今後していくにあたっては、リユース、食品ロス、インバウンド、環境教育等についての意見を踏まえた評価を行っていただきたい。

そ の 他

事務局から今後の審議会の日程等の説明を行いました。

<終了>